

平成 30 年 9 月 14 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26245074

研究課題名(和文) グローバル社会におけるコンピテンシーを具体化する高度教養教育の開発研究

研究課題名(英文) Research for high quality liberal arts education to develop competency in global society

研究代表者

羽田 貴史 (HATA, Takashi)

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・教授

研究者番号：90125790

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 30,000,000円

研究成果の概要(和文)：第1に、個別国家における教養教育の動向だけでなく、世界的視点でこれらを統合し、STEM教育という新たな 이슈 のもたらす影響を考察した。第2に、高等教育研究者だけでなく、数学、歴史学、体育学、キャリア教育の専門家が参画し、学問分野の視点から教養教育の現状と課題を考察した。これら学問分野の変動と再構築についてメタ認知分析を行った。第3に、アメリカ・イギリス・カナダ・ドイツ・中国・オーストラリアにおける教養教育の新たな動向を検討し、日本における大綱化以後の新たな動向を検討した。第4に、学習成果測定の視点から、教養教育を学士課程教育全体に位置付けて考察した。成果は、東北大学出版会から刊行した。

研究成果の概要(英文)：First, we considered not only the trends of liberal arts education in individual countries, but also the influence of the new issue of STEM education from a global perspective. Secondly, the research group consists not only of higher education researchers but also experts in mathematics, history, physical education and career education, and examined the present situation and problems of liberal arts education from the viewpoint of academic disciplines. Thirdly, We examined new trends of liberal arts education in the United States, the United Kingdom, Canada, Germany, China, Australia and Japan after deregulation of higher education. Lastly, we considered measuring of learning outcome of liberal arts education is considered as the overall bachelor's education education. Based on the above results, we published "Inquiry of high quality liberal arts education in global society" from Tohoku University Publications.

研究分野：教育学，高等教育論，大学史，大学管理運営論

キーワード：高度教養教育 コンピテンシー 学習成果測定 比較教育

1. 研究開始当初の背景

グローバル化した現代社会は、地球規模の生態系維持と環境保全、民族紛争の解決と安全保障の確立、エネルギー問題の解決と持続的成長が可能な経済システムの構築、多様な価値観を持つ人々の多文化共生社会の創出など、国民国家の枠を超えて人類の生存に関わる諸問題を抱えており、大学には、これらの課題解決に取り組む人材育成が求められている。

こうした人材は、高い専門性と分野を超えた全地球的鳥瞰力、生涯にわたって主体的に学び続ける能力と豊かな人間性・価値判断力を備えた存在であり、その能力を培う教育内容・方法及びシステムの全面的な改革が必要である

2. 研究の目的

現代社会が抱える複雑な諸問題を解決する人材育成のためには、高い専門性と分野を超えた全地球的鳥瞰力を備え、生涯にわたって主体的に学び続ける人材が求められる。そのためには、現在の大学教育パラダイム(①教養と専門の二項対立観、②教授者及び知識中心主義の教育観、③教養/専門科目の前期・後期課程配置の大学カリキュラム、④狭い研究訓練を中心とする大学院教育)を構造的に変革する必要がある。特に、大学教育で育成する学習成果は、知識中心主義からコンピテンシー(課題対応能力)へ転換しつつあるが、その能力を形成するために課題解決学習

(Inquiry-based Learning)を基礎にした、教育内容一科目一教材の構造化が大きな課題である。本研究は、諸外国における高等教育革新の蓄積も踏まえ、学士課程・大学院教育にまたがる高度教養教育を開発し、専門教育と統合したカリキュラムモデルの確立を行うものである。

3. 研究の方法

①国際比較、②コンテンツ及び教材開発、③学習成果測定の3つのサブ・グループを編成し、それぞれの研究成果が他グループの研究に反映して相乗効果をもたらす、最終的にコンピテンシーを具現化する高度教養教育カリキュラムを開発する。①国際比較においては、高等教育のグローバル化の進行のもとでの学士課程教育における教養教育の高度化の方向を明らかにし、②コンテンツ及び教材開発では、建設的協働学習、課題解決型学習、問題探求型学習を導入し、初年次から卒業に至る構造化とカリキュラム原理を、③学習成果測定では、学習成果の測定を通じたコンピテンシーの獲得状況を把握し、②グループのコンテンツ及び教材の妥当性を検証する。

4. 研究成果

第1に、個別国家における教養教育の動向だけでなく、世界的視点でこれらを統合し、STEM教育という新たなイシューのもたらす影響を考察した。

第2に、高等教育研究者だけでなく、数学、歴史学、体育学、キャリア教育の専門家が参画し、学問分野の視点から教養教育の現状と課題を考察した。これら学問分野の変動と再構築についてメタ認知分析を行った。

第3に、アメリカ・イギリス・カナダ・ドイツ・中国・オーストラリアにおける教養教育の新たな動向を検討し、日本における大綱化以後の新たな動向を検討した。

第4に、学習成果測定の視点から、教養教育を学士課程教育全体に位置付けて考察した。成果は、東北大学出版会から刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ・羽田貴史「大学における教養教育の過去・現在・未来」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第2号、2016年、47-60.
- ・山田礼子「21世紀型教養をどうSTEM高等教育に取り入れるべきか?—グローバル・コンピテンシーとSTEM高等教育の課題」『大学教育学会誌』39(1)、2017年、86-90.
- ・羽田貴史「危機に立つ教養教育—大綱化後4半世紀の課題と将来 指定討論『教養教育の何が危機なのか』」『大学教育学会誌』39(2)、2017年、24-28.
- ・羽田貴史「STEM教育をめぐる国際動向と日本の課題」『大学教育学会誌』39(1)、大学教育学会、2017年、81-85.
- ・羽田貴史「グローバル人材は、大学教育の目標足りうるか?」『曙光』No.39、2015年、3-5.
- ・羽田貴史「高等教育大衆化での研究大学の役割—研究と教育を統合した高大接続の展開—」『大学教育』13-1、大阪市立大学 大学教育研究センター、2015年.
- ・羽田貴史「巻頭言 ICTは人間を育てているか」『東京医科大学雑誌』73-2、2015年、75-76.

[学会発表] (計8件)

- ・羽田貴史(講演)「教養教育の危機—アメリカ・欧州・日本—」、第67回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会、東北大学、2017年8月.
- ・羽田貴史(指定討論)「教養教育の何が危機なのか」、公開シンポジウム「危機に立つ教養教育—大綱化後4半世紀の課題と将来」、

大学教育学会第 39 回大会, 広島大学, 2017 年 6 月.

・羽田貴史 (報告) 「東北大学における学際融合教育/高度教養教育の取り組みと課題」, 学際融合教育/高度教養教育ラウンドテーブル, 大阪大学, 2014年12月.

・羽田貴史「STEM 教育シンポジウム STEM 教育をめぐる国際動向と日本の課題」, 大学教育学会 2016 年度課題研究集会, 招待講演, 千葉大学, 2016 年 6 月.

・溝上千恵子・中島夏子「ブリティッシュ・コロンビア州における学士課程教育の現状: 3 大学の事例」カナダ教育学会第 48 回研究会, 2016 年 6 月 12 日.

・羽田貴史 (基調講演) 「高等教育大衆化での研究大学の役割ー研究と教育を統合した高大接続の展開ー」, 大阪市立大学 第22回教育改革シンポジウム, 大阪市立大学, 2014年12月.

・羽田貴史 (報告) 「ポスト教養部廃止第 4 段階の東北大学」, 国立大学教養教育実施組織会議全体協議会, 京都大学, 2014年5月.

・羽田貴史 (基調講演) 「勉強ができる人間は立派か? 大学教育が目指すべき人間像」, 大学教育改革フォーラムin東海2014, 2014年3月.

[図書] (計 5 件)

・吉田香奈「カリフォルニア州立大学における一般教育カリキュラム」『世界の高等教育の改革と教養教育』青木利夫, 平出友彦編, 丸善出版, 2016 年, 78-86.

・羽田貴史『現代社会の高度教養教育を創造するためにー東北大学高度教養教育開発の取り組みー高度教養教育開発推進事業報告書』東北大学学務審議会/東北大学高度教養教育・学生支援機構, 2016 年, 2-4, 全185p.

・羽田貴史, 藤本敏彦『IEHE Report 67 体育を通して見る人間教育セミナー報告書』東北大学高度教養教育・学生支援機構, 2016 年, 企画のほか執筆3-4, 全130p.

・羽田貴史, 森田康夫『IEHE Report 65 数理学教育の新たな展開ー文系基礎学・市民的教養としての数理学ー数理学教育シンポジウム報告書』東北大学高度教養教育・学生支援機構, 2016 年, 1, 97-98.

・羽田貴史, 山田礼子, 丸山和昭, 今野文子, 森田康夫, 藤本敏彦, 関内隆, 芳賀満, 猪股歳之, 吉田香奈, 中島夏子, 溝上智恵子, 田中正弘, 杉本和弘, 石井光夫, 足立佳奈, 鈴木学, 串本剛『グローバル時代の教養教育を求めて』東北大学出版会, 2018 年 3 月, i - iii, 3-28, 47-72, 371-373, 全 375p.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

羽田貴史 (HATA, Takashi)

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授
研究者番号: 90125790

(2) 研究分担者

杉本 和弘 (Sugimoto, Kazuhiro)

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授
研究者番号: 30397921

猪股 歳之 (Inomata Toshiyuki)

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授
研究者番号: 60436178

串本 剛 (Kushimoto Takeshi)

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授
研究者番号: 60457835

丸山 和昭 (Maruyama Kazuaki)

名古屋大学 高等教育研究センター 准教授
研究者番号: 20582886

吉田 香奈 (Yoshida Kana)

広島大学 教養教育本部准教授
研究者番号: 30325203

石井 光夫 (Ishi Mitsuo)

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授
研究者番号: 30375175

足立 佳菜 (Adachi Kana)

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 助手

研究者番号：20723539

鈴木 学 (Suzuki Manabu)
福島大学 総合教育開発センター特任准教授
研究者番号：70723542

藤本 敏彦 (Fujimoto Toshihiko)
東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授
研究者番号：00229048

関内 隆 (Sekiuchi Takashi)
東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授
研究者番号：50125473

芳賀 満 (Haga Mitsuru)
東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授
研究者番号：40218384

(3)連携研究者

森田 康夫 (Morita Yasuo)
東北大学 名誉教授
研究者番号：20011653

山田 礼子 (Yamada Reiko)
同志社大学 文学部 教授
研究者番号：90288986

溝上 智恵子 (Mizoue Chieko)
筑波大学図書館情報メディア研究科 (系) 教授
研究者番号：40283030

深堀 聡子 (Fukabori Satoko)
国立教育政策研究所 高等教育開発部 総括研究官
研究者番号：30423362

田中 正弘 (Tanaka Masahiro)
筑波大学 大学研究センター 准教授
研究者番号：40361638

(4)研究協力者

中島 夏子 (Nakajima Natsuko)
東北工業大学 講師
研究者番号：50625663

今野 文子 (Konno Fumiko)
東北大学高度教養教育・学生支援機構 元講師
研究者番号：20612013